

レジメンcode:	C90-16
適応がん種:	多発性骨髄腫
レジメン名:	DPd療法(皮下注)(75歳未満)
間隔:	4週間

備考

略名	抗がん剤(採用薬品名)	投与量	単位	投与法	投与日
	ダラキューロ	1800	mg/body	皮下注[*1]	[*2]d1、8、15、22
	ポマリスト	4	mg	内服(朝食後)	d1~21
	レナデックス	[*3]20	mg	内服(朝食後)[*4]	[*3]d1、2、8、9 15、16、22、23

※ダラキューロ開始前に不規則抗体スクリーニング検査を含めた一般的な輸血前検査を実施すること※

[*1]ダラキューロ15mlを約3~5分かけて腹部へ皮下注射する。〈図1参照〉

[*2]ダラキューロは1~2サイクル(1~8週目)までは1週間間隔、3~6サイクル(9~24週目)までは2週間間隔、7サイクル(25週目)以降は4週間間隔になる。(表を参照)

[*3]レナデックスはダラキューロ投与日に20mg/日、投与翌日に20mg/日内服と2日間に分けて内服する。

3コース目から注射を実施しない週は、週1回40mg/日を内服する。(表を参照)


[*4]infusion reactionを軽減させるためにダラキューロ投与1時間前にレナデックス、カロナール、d-クロルフェニラミンを内服すること。

連日[*5]

1) バイアスピリン	100mg	1 錠/day
アシクロビル	200mg	1 錠/day
	内服	朝食後

[*5]血栓塞栓症、帯状疱疹の発症予防のため上記薬剤の内服が推奨されている。

【7サイクル以降(25週目～)】

7サイクル以降	1サイクル28日間											
	day1	day2	~	day8	day9	~	day15	day16	~day21	day22	day23	~day28
ダラキューロ(皮下注)	↓											
レナデックス(経口)	20mg	20mg		40mg			40mg			40mg		
ポマリスト(経口) day1~21												

【内服】

day1~21 (day22~28は休薬)

- 1) ポマリスト 4mg 1 Cap/day
- 内服 朝食後

day1、2(ダラキューロ投与する週は20mg/日を2日間内服。投与日、投与翌日)[*3]

- 1) レナデックス 4mg 5 錠/day
- 内服 朝食後

*ダラキューロ投与日は投与1時間前に内服

day8、15、22(ダラキューロ投与しない週は40mg/日を1日内服)[*3]

- 1) レナデックス 4mg 10 錠/day
- 内服 朝食後

【皮下注射】day1

- 1) ダラキューロ 1800 mg/body 前投薬確認
- 皮下注 臍から約7.5cmの腹部皮下に本剤15mLを約3~5分かけて投与する。
- 〈所要時間 - 〉

次ページあり

【文献】

◎注意事項

ポマリストは、ヒトで催奇形性を示すサリドマイドによく似た薬剤であり、胎児への暴露予防を目的にその流通および使用が適正であるかを管理・評価する「レブラミド適正管理手順(RevMate:レブメイト)」が定められている。RevMateは、医療関係者、患者さんとそのご家族等、すべての方に理解し遵守していただくことが必要である。

*ダラキューロは赤血球膜表面上に発現しているCD38と結合し、間接抗グロブリン(間接クームス)試験結果に干渉し、不規則抗体の検出に関して偽陽性になる可能性がある。(この干渉はダラキューロ治療中、及び最終投与から6ヶ月続く可能性がある。)

*ダラキューロは調製後7時間以内に投与終了すること。

[*1] <図 投与部位に関する注意事項>

投与部位に関する注意事項

- 本剤は皮下のみに投与し、静脈内には投与しないでください。
- 本剤は臍から左又は右に約7.5cmの腹部皮下に、15mLを約3~5分かけて投与してください。他の部位への投与はデータが得られていないため行わないでください。
- 同一部位への反復注射は行わないでください。
- 皮膚の発赤、挫傷、圧痛、硬結又は瘢痕がある部位には注射しないでください。
- 患者が痛みを感じた場合は、注射速度を減速又は注射を中断してください。減速しても痛みが軽減しない場合は、残りを左右逆側の腹部に投与することができます。
- 本剤投与中は、同一部位に他の薬剤を投与しないでください。

投与部位と投与順番例

